

犬島：より環境に優しい未来に向けて

本州岡山県の南方約 3 キロに位置する犬島は、瀬戸内海で最も人口の少ない島のひとつです。外周は 4km で、完全に徒歩のみで探索できます。島の唯一の集落には現在約 40 人の居住者しかいませんが、犬島で銅製錬所が操業していた 1909 年から 1919 年の間には何千人もの人々が住んでいました。かつての製銅所の建物は修復・改修され、2008 年からは犬島精錬所美術館となり、「在るものを活かし、無いものを創る」をモットーにしています。この哲学は、精錬所に元からあった大煙突と銅の精製過程の副産物である廃棄スラグから作られたレンガを博物館に取り入れることで実践されています。この概念は、日本の急速な近代化に警鐘を鳴らしていた作家、三島由紀夫（1925 年–1970 年）の思想をテーマにした柳幸典（1959 年生）の作品展示にも表れています。

博物館自体は建築家の三分一博志（1968 年生まれ）の設計で、太陽光、地熱およびその他の形態の再生可能エネルギーで全ての電力を供給しています。犬島はアートの目的地としてその名を知られており、最近では世界中から観光客が流入しており、島に新たな命を吹き込んでいます。